

(仮称)子ども包括支援センター「みらいく」に子育てひろばを
設置するためのワークショップ成果品

子育てひろばの整備方針（最終版）

「子育てひろばの整備方針」の位置づけ

子育てひろばを様々な人が関わる施設にするための第一歩として、これを利用する保護者(市民)や、敷地を所有する実践女子大学、子育てひろば及び子育てひろばに隣接して整備される中高生支援施設を担当する市役所職員が集まるワークショップを開催し、ここで出された意見を反映した整備方針をまとめました。

令和5年度には、ワークショップの成果であるこの整備方針を手がかりに内装等の整備を行う予定です。

※今後は、“この内容を予算内でどのように実現するか”遊具メーカー等から企画提案を募り、これを踏まえて最終的な仕様を市が決定します。そのため、実際に整備される子育てひろばは、この整備方針の内容から一部変更された箇所が出てくる可能性があります。

1. 基本的な方向性

市内の乳幼児とその保護者の生活の一部となって気軽に足を運んでもらうこと、
子育ての孤立化を防ぎ明るい展望を得る手助けとなること を目指して、
“(仮称)子ども包括支援センター”にふさわしい日野市の子育ての拠点となる場を創造します。

(1) “行ってみたい”と思えるような特別な魅力がある場

- 「みらいく」のシンボルとなるようなインパクトのある遊具がある
- ここにしかない、家ではできない体験ができる
- 日野市の魅力や四季を感じるといった特徴がある
- 立体的な遊具や壁面の利用などにより限られた空間を最大限活用する

(4) 誰もが暖かく迎え入れられる場

- 障害のある子、ない子が一緒に遊べる
- 初めて来た人が中を覗いてみたくなる、中に入ってみたくなる
- 寝たきりの子(ストレッチャー)や両手に子どもを抱えた保護者でもスムーズに入ることができる
- 明るく暖かい雰囲気で居心地がいい

(2) 子どもと保護者がともに楽しい時間を過ごせる場

- 子どもが体を動かして目一杯遊べる
- ごろごろ遊びやおもちゃ遊び、お絵かきなど色んな遊びができる
- 子どもと保護者が一緒に参加するような様々なイベントを開催できる
- ひろばに来ることが保護者にとっては息抜きにもなる

(5) 安全に遊べる／安心して遊ばせられる場

- 保護者やスタッフの目が届きやすい
- 段差等がなく転びづらい、柔らかい素材で転んだりぶつかったりしても痛くない
- 汚れにくく掃除がしやすい(清潔な空間)
- トイレやおむつ替え、授乳や簡単な食事などを行うために必要な空間や設備が揃っている

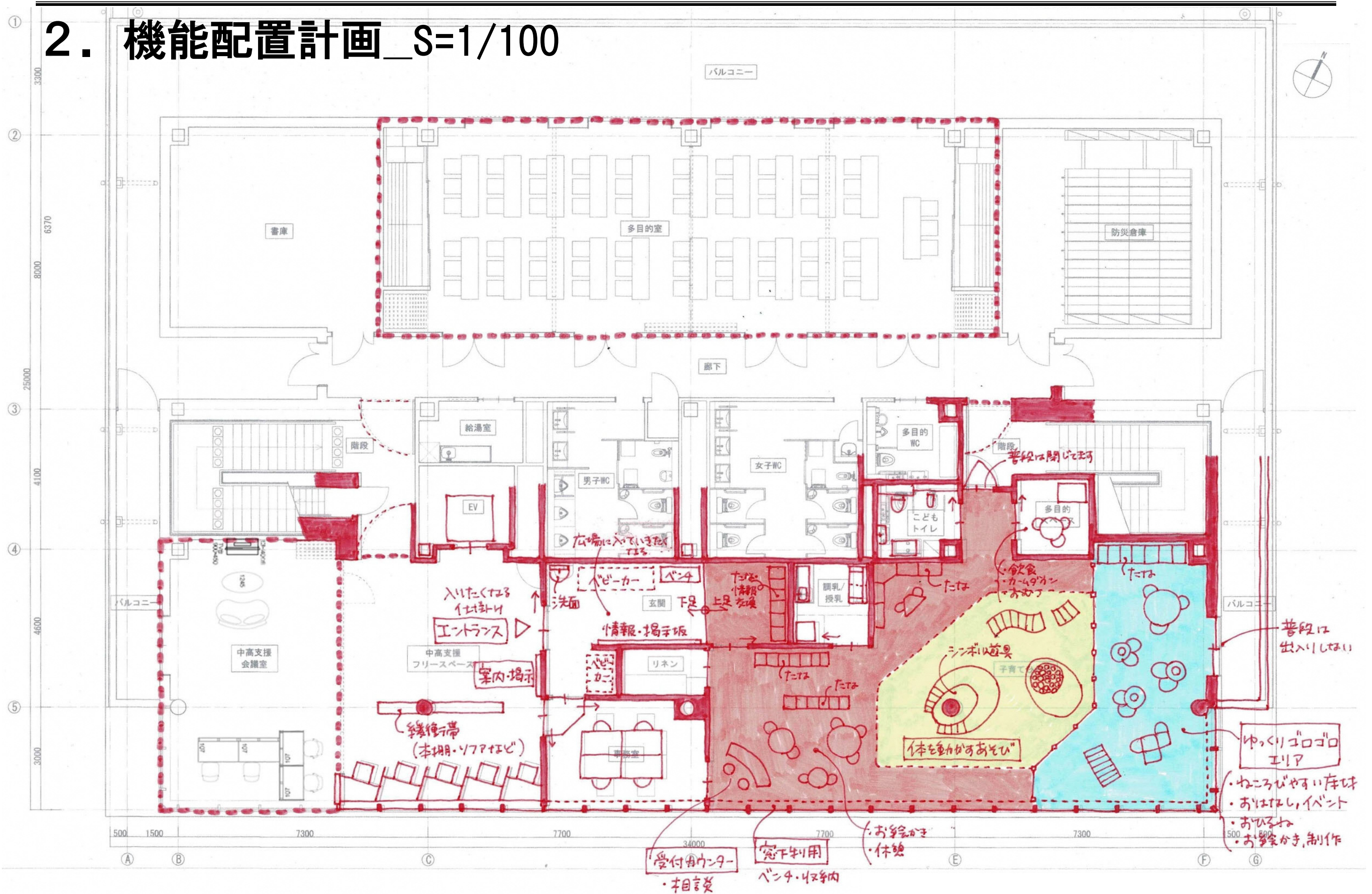
(3) 子育ての支えになるような多様なつながりや交流 が生まれる場

- 気軽に相談ができたり、ためになる情報が得られたりする
- 同じ立場の子どもや保護者と知り合い、交流が生まれる
- 中高生や大学生、地域の高齢者等の様々な人々との交流も生まれる
- 子育てに必要な物品の交換などができる

(6) みなで育てる／育てられる開かれた場

- 「みらいく」の建物全体で子育てに関するサポートを受けることができる
 - ー必要な申請や相談をすぐに行うことができる
 - ーひろば横の会議室ではおしゃべりや、イベントの企画・開催などを行うことができる
 - ーひろばの行き帰りには館内のカフェで食事をしたり、一息ついたりすることができる
- 時には、「みらいく」外の施設や団体と連携して遊びや体験に参加することもできる
- 利用者と運営者、大学等の協力者、行政が協力して利用者の声を活かしたひろばを創っている

2. 機能配置計画_S=1/100



3. 各エリア・スペースの整備方針_(1)中高生支援フリースペース等

■ワークショップで出された主な意見

- 中高生世代が1日中いつでも(午前中も)来られる居場所を確保してあげたい(「子育て関連で使っていて入れない」ということがないように)
- 最初はあまり「交流」を目指さなくても良い／まず「居場所」になれば
- 利用時間までの待合に使える、帰り際に座って話ができる、ちょっとした飲食ができる、子どもの身支度もできるような共有の場所になると良い
- ソファや自動販売機、コーヒーマシン等が欲しい(中高生世代も使える)
- 中高生世代と乳幼児との交流、多世代の交流ができると良い

- 来訪者を迎える場所と静かに勉強できる場所の間の緩衝帯が大事
- 入りやすくするためには中で何をやっているかが分かるような／見えるような工夫が必要(例えば、覗き窓やモニター、スライドショー等)
- 案内板やここに(ひろばの外に)に受付があると良い
- ウェルカムを感じるエントランスにしたい
- 事務室からこちらにいる人にも目が届く、声かけられると良い

① 中高生世代支援会議室

- 友達とおしゃべりをしたり、ひとりで本を読んだり、自習をしたり、リモート授業に参加したり、ただゆっくりしたり…中高生世代がふらっと立ち寄り、思い思いの時間を過ごすことができる居場所となる
- 落ち着いた内装や、テレビ／オンラインゲーム等ができる大型モニターやソファなどを設置して、居心地の良い空間を演出する
- 干渉し過ぎずさりげなく迎え入れるような運営面の対応とあわせて一日中いられるような場所とする

⑤ 壁面・壁際

- 案内コーナーやモニター等を設置してひろば内でどんなことが行われているか分かるようにする
- ゲートの設置や定期的な声かけ等によりウェルカム感を演出することを検討する
- 中高生支援会議室側には中高生向けの案内等の設置も検討する

④ ウェルカム・スペース(仮)

- ソファや自動販売機・コーヒーマシンなどを設置して中高生や子育てひろばの利用前後の親子が一息つけるような場を用意する
- 一息つく両者が交わることで中高生が乳幼児に触れる子育て教育の機会となる
- 本棚に置かれた書籍や雑誌、中高生が選曲した音楽などを媒体にして大人(保護者)と中高生の交流が生まれる

② 自習スペース

- 中高生世代が自宅の外でも落ち着いて勉強ができるもう1つの居場所となる

③ 緩衝帯

- 静かな自習スペースと賑やかなウェルカム・スペースの緩衝帯となるように両者の間に本棚を設置する



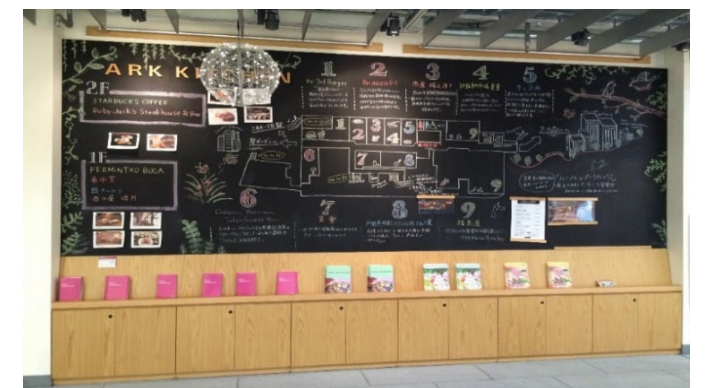
中高生支援会議室(①)のイメージ



緩衝帯(②)のイメージ



ウェルカム・スペース(④)のイメージ



壁面(⑤)の案内表示のイメージ
(玄関通路(2)②)の情報発信コーナーも同様)

3. 各エリア・スペースの整備方針_(2)玄関／バックヤード

■ワークショップで出された主な意見

- ベビーカー置場は十分な大きさ(双子用等の大型も置ける)を確保したい
- 中が見えない分、壁や通路を使ってウェルカム感を演出することが大事
- 行き帰りに子育てに役立つ情報(お知らせや本の貸出)が得られる(、収集もできる)コーナーがあると良い
- リユースコーナー、ミニショップ、フードパントリーコーナーなども欲しい
- 下足スペースには、ベンチや荷物を置くスペースがあると良い
- おもちゃ置き場、荷物置き場の棚を十分に確保する
- 子どもが自分でおもちゃを片付けられるような工夫ができないか
- 壁に絵を描けるようにしたい、情報・アンケートコーナーを作りたい
- 窓や天井に飾り付けをして楽しい雰囲気をつくる
- 昇降台を設置して子どもが外を見えるようにしたい
- 感覚に過敏性のある子のために遮光や間接照明等の工夫も必要

④授乳／調乳室

- 電子レンジを使った簡単な調理や調乳ができ、閉館時間後にはスタッフが洗濯を行う場所となる
- 落ち着いて授乳等ができるような設えとし、周りの音がうるさくならないように注意する
- 授乳している時などに眺められる場所にも掲示板の設置を検討する【④～⑥共通】

⑤こどもトイレ

- 子どものトイレとおむつ替えを行う場所となる
- 大人は裏のトイレを利用する

⑥多目的スペース※

- 遊び場ではできない以下のような活動ができる場所となる(例えば、小グループでのおしゃべりや簡易の飲食、興奮した子どもを落ち着かせる等)
- トイレがいっぱいの時はこちらでもおむつ替えを行うことも可能

②玄関通路

- 受付までの距離を感じさせないような楽しい空間とする
- 行き帰りに自然に役立つ情報が得られるような情報発信コーナー(掲示板等)を整備する
- 大空間を活かして(十分な通路幅を確保しつつ)子どもの制作物や子ども用品、食料品、子育て関連書籍などを展示・交換・販売等ができるギャラリーコーナーの設置も検討する

①入口付近

- 手洗い用の水道や、十分な台数のベビーカーが置けるスペースを確保する

③下足スペース

- ソファ等を設置して妊娠中のお母さんでも容易に靴の脱ぎ履きができるような場所とする
- 下足箱と一体的にギャラリーコーナーや貴重品用ロッカー(ここには大きな荷物を置かない)を設置することも検討する



玄関通路(②)の楽しい空間のイメージ



玄関通路(②)のギャラリーコーナーのイメージ



下足スペース(③)の下足箱のイメージ



多目的スペース(⑥)のイメージ

3. 各エリア・スペースの整備方針_(3)ひろば内

■ワークショップで出された主な意見

- 全身を使う遊び、おもちゃ遊び、つくる遊び、読む遊びなど
- 柱を活かしてシンボルとなる遊具をつくりたい(例えば、多摩動物公園に因んだキリンの遊具など)
- 障害を持つ子ども遊びやすい環境を整備する(ソファやハンモックなど)
- 遊びの“静と動”の区別がつくように配置の工夫や仕切りの設置が必要
- 保護者の居場所があると良い、保護者同士で交流できると良い
- おもちゃ置き場、荷物置き場の棚を十分に確保する
- 子どもが自分でおもちゃを片付けられるような工夫ができないか
- 壁に絵を描けるようにしたい、情報・アンケートコーナーを作りたい
- 窓や天井に飾り付けをして楽しい雰囲気をつくる
- 昇降台を設置して子どもが外を見えるようにしたい
- 感覚に過敏性のある子のために遮光や間接照明等の工夫も必要

①受付周辺

- 入場時に必要な登録受け付けや体調確認などを行いながら、簡単な相談もできる、また②でも③でもないフリーな使い方ができるスペースを確保する
- 室内は明るく、「みらいく」のロゴとも調和したイメージとする【共通】

②体を動かすあそびエリア

- エリア内の柱を活かして、登ったりくぐったり滑ったり、大きく体を動かして遊べるシンボル遊具を設置する
- シンボル遊具の周りを“動”の遊びを楽しむ場所とする
- 他にも、大小の遊具や親子で座れるクッション、子どもが転んでも痛くないような床材等を配置して、様々な来訪者がそれぞれ体を動かして遊べるようにする

③ゆっくりゴロゴロエリア

- 一番奥のスペースは、赤ちゃんがハイハイしたり、もう少し大きな子が静かに遊んだりできる場所とする
- 北側は、子どもが寝た場合に寝具を設置することも想定する
- 時には、イベントスペースとして一体的に利用できるように柔軟な使い方ができる場所とする

④仕切り・境界

- ②で遊ぶ子どもが③に飛び出してくることがないように、外から子どもが簡単に乗り越えられない、中ではつかまり立ちができる、かつ座った大人の目が届くような高さの仕切りを設ける
- 仕切りは単なる柵よりも、それ自体が遊びの材料となるような設えや可動式のもの望ましい
- ①～③の各エリアの遊具などが季節やイベントに応じて配置変換(可変)できると良い

⑤壁面・棚

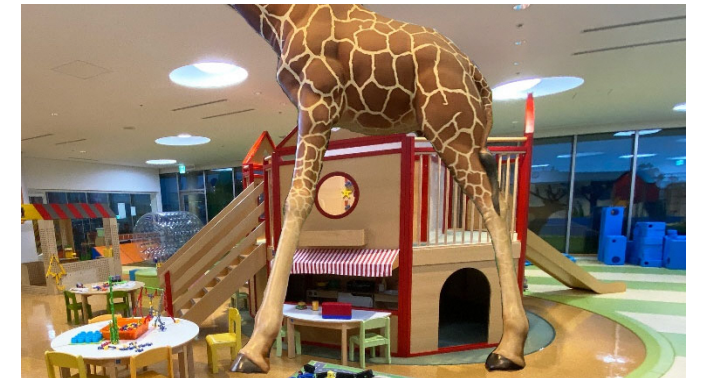
- 北側の壁にはおもちゃや備品等をしまう棚を設置する
- 受付付近には利用者の荷物置場を設置する
- その他、壁面を利用したお絵かきスペースや壁を使った遊具、掲示板の設置なども検討する

⑥天井面

- モビールや子どもの制作物等を飾って楽しい空間を演出する
- ゆっくりゴロゴロエリアには、子どもを抱いた保護者が乗れるようなハンモックなどの設置も検討する

⑦窓面

- 窓面には楽しい雰囲気を演出するシールや感覚に過敏性のある子どものためのカーテンなどを設置する
- 窓の下部には、外を見たい子どもが登れる昇降台やちょっとした階段、大人のベンチ、おもちゃや荷物を置ける棚などを設置する



体を動かすあそびエリア(②)のシンボル遊具のイメージ



ゆっくりゴロゴロエリア(③)のイメージ



天井面(⑥)の演出や窓面(⑦)の有効活用のイメージ



明るい室内のイメージ【ひろば内共通】